

ITU-T SG16 副議長 (WTSA-16 選出(新任)) 山本 秀樹氏 (沖電気工業) に聞く

【読者のための豆知識】

SG16 (第16研究委員会)の活動内容：
マルチメディア符号化、システム及び
アプリケーション

専門領域: IPTV の開発、標準化

略歴: 1984年 京都大学電気工学科 卒業
1984年 沖電気工業(株) 入社
1995年 東京大学 博士号(工学)取得
2002年 アジア・太平洋電気通信標準化機関(ASTAP)ラポータ
2007年 ITU-T FG-IPTV 参加、IPTV 技術標準に携わる
2013年 ITU-T SG16 APT リエゾンオフィサー
2016年 ITU-T SG16 副議長就任(現在に至る)



— 先の WTSA-16 での選出そしてご就任おめでとうございます。
今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちは？

(山本) 大変光栄に思います。SG16 はマルチメディア通信を担当しているグループで、これまでも、三菱電機の内藤さん(前 SG16 議長)が、ワーキングパーティの議長、副議長、議長と 20 年以上の間、この分野をリードされてきました。内藤さんには到底及びませんが、この分野の発展に貢献できればと考えています。

— ご担当事項とご経歴、ITUとの係わり、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

(山本) 現在 IPTV 関係の仕事をしています。その関係で、2007 年に ITU-T のフォーカスグループ・IPTV(FG-IPTV)に参加したのが最初でした。FG 終了後、提案した内容に関する勧告作成作業が SG16 で開始され、SG16 の会合に参加するようになりました。最初は他の方がエディタをされている文書に寄与と文書を出すだけでしたが、提案している内容を別途勧告化すべきというラポータの勧めがあり、エディタとして勧告の編集作業等も行うようになりました。

— これから副議長として重責を担われるわけですが、次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えですか？

(山本) 高品質映像マルチメディアを中心としたマルチメディアサービスです。SG16 の規格で最も多くの人に関係しているのは、画像圧縮の規格 H.264、H.265 だと思います。これらを使った業務用 TV 会議や、娯楽用の IPTV などの映像サービスは世の中にいきわたっています。次研究会期の間、東京オリンピック・パラリンピックに向けて普及が予想される 4K/8K の IPTV やパブリックビューイング、超臨場感ライブ体験にかかわる課題を検討していきます。さらに、高齢化社会に向けて重要な健康サービス、自動車関係、翻訳関係、アクセシビリティ、電子政府といったマルチメディアにかかわる、人が直接触れる様々なサービスの課題を検討していきます。

— 副議長としての抱負をお聞かせください。また、どのような点に力点を置いて活動される予定ですか？

(山本) いま述べたような課題を検討するにあたり、サービスの内側の世界では、クラウド化、仮想化、5G、モバイル端末の普及、セキュリティの脅威の増大、AI の浸透、IoT、街全体のスマート化の普及など新しい技術の動きが始まっています。

これらの課題を検討している他の機関との連携をとり、安心して使える感動のあるサービスを提供できるような活動を行っていきたくと考えています。特に次会期の間、アジアを初め、アフリカ、アラブ、ロシアの通信環境はますます先進国に近づくことが予想されるので、それらの地域でも導入できるサービスのための検討が重要だと考えます。

— 副議長としての難しさや壁(障壁)、そうしたことへの対処方法はどうかお考えですか？

(山本) 技術情報や、サービス提供者・NW 事業者・エンドユーザなどの様々な方のニーズなどの情報を活用して成果を出していくには、様々な方との F2F の議論の場が重要だと思います。そういう場をできるだけ多く提供できるように、議長や、様々な地域から来られている副議長の方と相談して進めていきたいと考えています。

— わが国、各加盟国の政府関係や ICT 産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

(山本) これまで活動する中で、政府関係の方や ICT 産業界からの厚いご理解やご協力によって、ITU の活動が成り立っていることがよくわかりました。SG16 が、今後の社会および産業界からのメンバーの事業に役に立つ勧告を生み出し広めていくために、より一層のご理解とご協力をお願いいたします。

— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

(山本) プライベートな時間は、家の周りで育てている植物や、メダカやエビのいるビオトープの世話で時間を使っています。スペースが無いので、鉢植えばかりですが、種から育てた鉢植えで、何とか果物を収穫しようと、堆肥づくりや日当たりを求めての植木鉢の移動など、いろいろ取り組んでいます。今年はオリーブが少しだけとれました。メダカやエビは睡蓮鉢の中でもう 5,6 年、世代交代して生きながらえています。

— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

(山本) ITU は国際機関ですが、せっかく日本からの副議長として選出いただきましたので、わが国、地域、産業界の皆様の課題解決に役に立つ SG16 になるよう率先して活動していきたいと思えます。何かございましたらお気軽にご相談ください。どうかよろしく申し上げます。



文責:(一財)日本 ITU 協会(M)